

スキャナーと イメージ管理システムの連携で 電子化と業務効率化を加速、 お客さまとの チャネル(接点)強化を図る

スキヤンの手間や時間が削減し、 業務効率化を実現

「このまちが、すべて。このまちに、すべて。」をスローガンに、福岡県一円、山口県下関市、大分県中津市を営業エリアとして地域の発展に貢献し続け、2024年でちょうど創立100周年を迎える福岡ひびき信用金庫。本来の銀行業務のみならず、地域の活性化を担う企業経営者や従業員などを対象に有識者による講義を行う「福岡ひびき経営大学」、地元の中小企業経営者を表彰する「福岡ひびき経営者賞」、会員同士の交流を図る「ひびしん同友会」など、地域活性化のためにさまざまな取り組みを行っている。

顧客の中心が地元の中小企業や地域住民の福岡ひびき信用金庫。スピード感を持ってFace to Faceの対応を中心にお客さまとの距離感を大切にしてく

た。その姿勢はコロナ禍で人と接することが制限される中であっても変わらない。

金融業界は他の業種に比べてDX化が遅いといわれている。そのような中で、福岡ひびき信用金庫ではDXが叫ばれるようになる以前からベンダーと協力して積極的に業務のデジタル化(信金DX)を推し進めてきた。

今回、顧客とのチャネル強化のためさらなる業務効率アップを目指し、キヤノン製のPCレスネットワークスキャナー「ScanFront400 (SF400)」、立山科学製の「イメージ管理システム (SFS Lite PLUS)」を導入した。今後は、SSB ソリューション社の「経費支払システム」などの既存システムと相互連携させる予定である。

Client Profile

あなたと共に、ハーモニー・バンク
福岡ひびき信用金庫

信用金庫

従業員数: 567人

所在地 : 福岡県北九州市
八幡東区尾倉2-8-1
設立 : 1924年1月
出資金 : 34億77百万円



システム部 部長 吉田篤史氏

電子帳簿保存法やインボイス制度などの 法制度に対応する必要があった

福岡ひびき信用金庫では、他社製のスキャナーを長期にわたって利用していたが、その間に改正電子帳簿保存法やインボイス制度など、法制度の変更が決定したため、スキャナーの更改と同時にこれらの制度対応とペーパーレス化を推進できるしくみを2021年末ごろから探していた。

当社とは2019年から投資商品販売支援システム「しんきん預かり資産ナビ」を導入したご縁で、2022年のはじめにキヤノン製のネットワークスキャナー「ScanFront 400（以下『SF400』）」と立山科学製イメージ管理システム「SFS Lite PLUS（以下『SFSLP』）」をセットにしたソリューションを提案し、同年10月に本格稼働を開始した。

▶ お客さまとのチャネル強化のため業務効率化したかった

福岡ひびき信用金庫では世の中で「DX」が叫ばれる以前から、システムを内製しながら独自に業務のIT化を進めてきた。さらにお客さまとの接点強化を図るには、より一層の業務効率化を図る必要があると考えた。

そこで、同金庫のシステム部では1つのシステムで、「手形小切手、本人確認記録書、入出金伝票など多種多様な書類を管理すること」「スキャン操作時のインデックス（顧客情報等）入力を省力化すること」をポイントに検討。システム部長の吉田氏は、「できるだけ管理負荷を軽減するシステムを採用すること

により、業務の手離れを良くしたかった」と当時を振り返る。

また、お客さま窓口業務ではさまざまな書類をスキャンする場面がある。以前のスキャナーでは、免許証のように表裏がある書類は両面同時にスキャンできないため、表面と裏面をそれぞれスキャンすることや、お客さまの機微情報消し込みのため、一度コピーしてマスキング処理の後にスキャンする手間が発生していた。

▶ 電子交換所への対応も目的だった

吉田氏によると、手形小切手の電子交換所に対応することも目的の一つだった。電子交換とは、2022年11月にスタートした電子交換所により金融機関間の手形や小切手の交換をイメージデータの送受信で完結できるようにする仕組みである。「今回設置したスキャナーを利用し、営業店にて手形小切手をスキャンするだけで、本部の担当部署に現物のイメージ伝送ができるようになった。これにより、営業店での現物持出の負荷を軽減することができ、また、手形小切手の現物輸送時間を考慮する必要がなくなった。結果として、本部側での電子交換所持出までの作業時間に余裕を持つことができた」と吉田氏。

使いやすさのほか、既存システムとの連携など 将来の拡張性への期待があった

導入の際には、事前にデモ機を設置し実際に使って試していただいた。「顧客番号（顧客属性）をスキャンした文書に紐づけて管理できるのが一番便利だった」と吉田氏は語る。今までは免許証等の本人確認書類を一度コピーしてからスキャンする必要があったが、そのまま読み込んだこともポイントになったと言う。

当初、イメージ管理システムは他社製のものを検討していたが、SF400との親和性や集中スキャナーへの対応も可能な点、電子帳簿保存法対応に必要な改ざん防止・タイムスタンプ付与ができる点が評価され、当社の提案が採用された。イメージ管理システムとスキャナーを同一ベンダーから納入できれば、サポート窓口を集約でき、問い合わせ時に便利なことも選定理由の一つだった。

▶ トラブル対応への速さも決め手に

「トラブル時の迅速な対応も決め手でした」とシステム部員の弘友氏は語る。同氏によれば、SF400のデモ機を検証していたときに一度不具合が発生した。「システムを起動したときに完全に初期化されて焦りました。営業担当に連絡をしたところ、すぐに技術部門の方と連携していただき、設定を変えることで不具合を解消することができました」と当時の様子を語ってくれた。営業担当と技術部門が連携した迅速なトラブル対応力も、キヤノンマーケティングジャパンの強みである。



Mission03 導入後の成果

スキャン時の手間が減り、その分お客さま対応に使える時間が増えた

SF400では、原稿の種類（厚紙、薄紙）、印字面（片面、両面）、印字方向が混載した書類も気にせずスキャンができる。更に、SFSLPの機能を併用することで、本人確認媒体のスキャン時など、スキャン画面上で指をスライドさせるだけで機微情報のマスキングも可能になり、表裏もA4片面に自動割付されるため、従来の煩雑な作業をなくすることができる。従来1件あたり2枚を要していたコピー枚数も1枚になり、またコピーミスも減ったことで、紙の使用量削減にも貢献している。

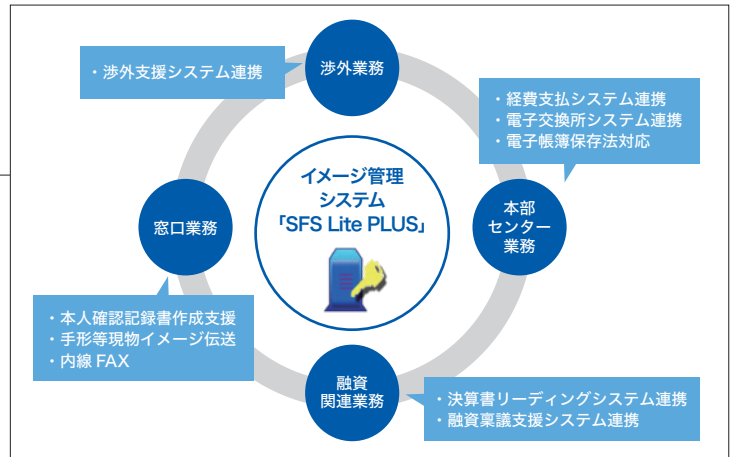
「本人確認媒体の表裏コピー取得、機微情報マスキングというちょっとした手間が減るのは些細なことかもしれませんが、しかしながら、10人お客さまがいるとすれば10回分の手間が減ることになります。1回分の作業で削減できる時間はわずかですが、それが積み重なってお客さま対応に使える時間が増えましたね」と弘友氏は笑顔で語る。

▶ 金庫内からも「スキャンしやすくなった」の声

また、営業店に勤める弘友氏の同期からも、「スキャンしやすくなった」との声が届いている。「融資担当も帳票をスキャンする回数が多いので、SF400を導入することで手間が減り、業務効率アップにつながっています」と弘友氏。

今回、SF400とSFSLPを連携し、入力方法や用紙の置き方といった操作方法を画面表示させることにより、直感的に使える仕様にした。

これまで同金庫では、スキャナーの使い方がわからない場合はシステム部に問い合わせが入っていた。操作画面の表示により、問い合わせ対応に費やす時間を大幅に削減し、システム部の負担軽減も実現できているという。



適用業務イメージ（例）

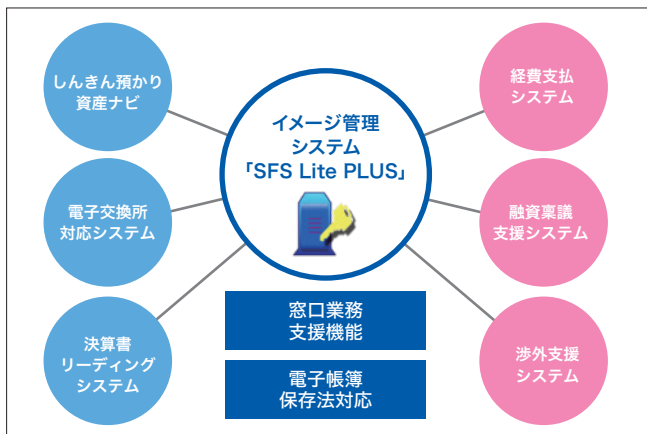


Mission04 今後の展開

スキャン文書のOCR処理やドキュメント管理の自動化を進め、さらなる業務効率化を図る

今回、キャノン製のスキャナーに加え、立山科学製のイメージ管理システムを導入したことにより、業務横断的な管理・検索を実現。また、契約書などの一定期間および永久保存が必要な書類の電子化実現のためにタイムスタンプ機能を実装した。「問い合わせ窓口の対応や営業担当のレスポンスはととてもよいので、この体制を維持してほしいです。また、他金庫や地銀などの事例についても情報をいただければありがたいです」という要望もいただいている。

今後の展望について、吉田氏はこう語る。「キャノンMJ」さんのドキュメントソリューションの強みを活かし、スキャンした書類のOCR処理やドキュメント管理の自動化も進めていくつもりです。相続関係の書類など、電子帳簿保存法に対応した帳票の種類を増やし、紙を極力持たないようにしたい。そうして創出できた時間で、アプリバンキングの充実やお客さまとのチャネル強化を進めていきたいですね。信用金庫はセキュリティが命なので、セキュリティを確保しつつお客さまとの接点を強化して情報発信していきたいです」。



業務システム連携イメージ（将来像）

▶ SSBソリューション社や他社システムとの連携も期待

スキャナーとイメージ管理システムに加え、さらに、信用金庫業界で圧倒的なシェアを獲得している「経費支払システム（SSBソリューション社）」との連携も近日中に予定している。これも改正電子帳簿保存法やインボイス制度の対応を見越してのことだ。吉田氏からは「大手バンカーでは他社との協業は難しいようですが、キャノンMJさん・立山科学さん・SSBソリューションさんと3社で協業していただけるのはありがたいです」と評価をいただいている。

福岡ひびき信用金庫全店へのキャノン製のスキャナーや立山科学製のイメージ管理システムの導入は実現できたものの、業務用途を拡大していくのはまだまだこれから。キャノンマーケティングジャパンとして、さらに協業バンカーとの連携を強化させ、投資信託や保険、相続などさまざまなお客様の業務をサポートすることで、デジタル化や業務効率化に貢献していく。

1. 金融機関の業務で発生する様々な紙文書の電子化を支援

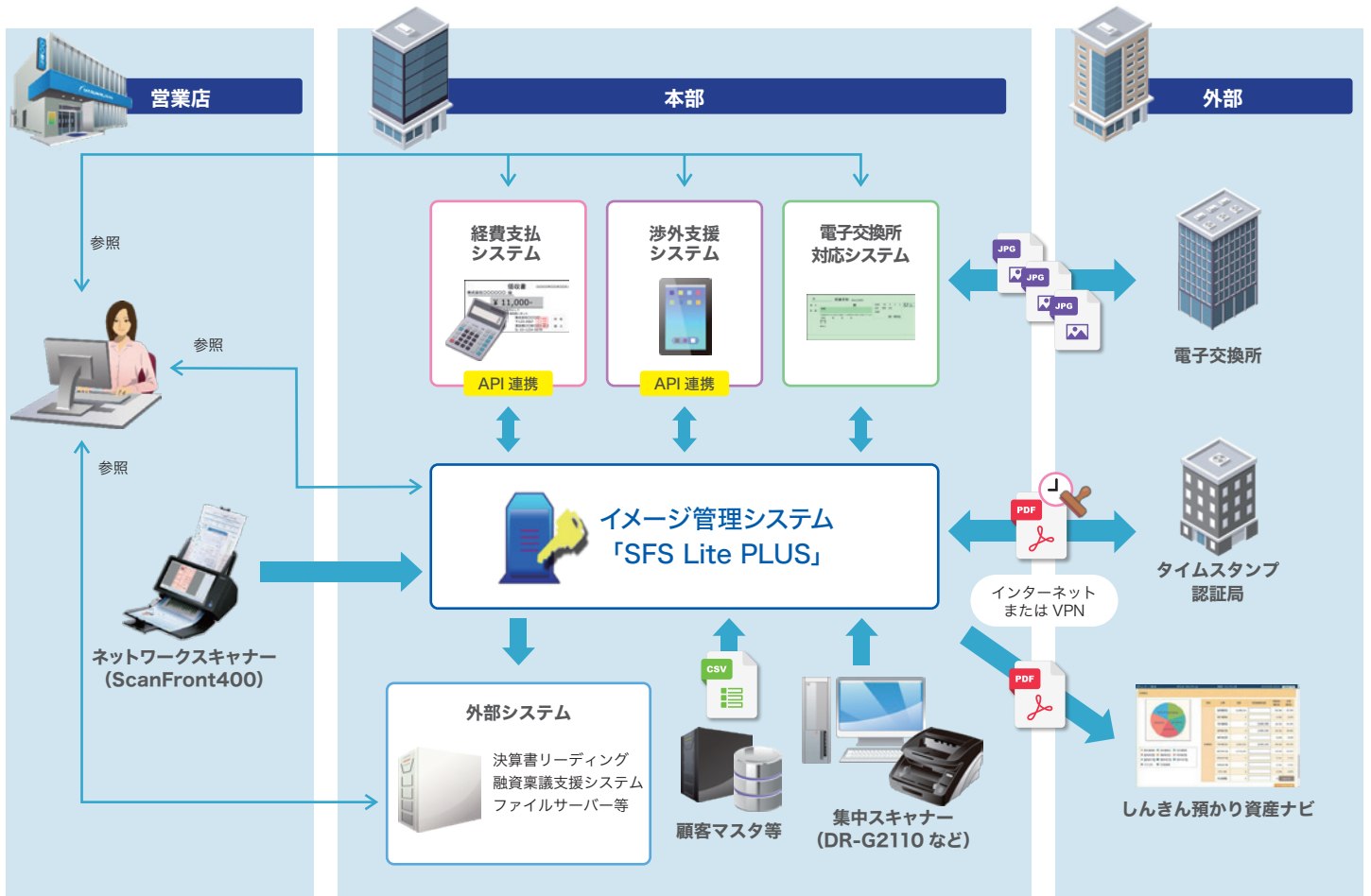
- ✓ 短い操作動線と少ない手順で事務リスクの低減と効率化を支援
- ✓ 習熟度に依存せず簡単かつ確実にスキャン業務が行えるジョブ機能（入力した顧客番号に対する顧客属性の確認もスキャン画面上で可能）
- ✓ 分散（営業店）／集中（本部） いずれにも対応（帳票・書類に応じて、最適なロケーションでスキャンが可能）

2. 改正電子帳簿保存法などの制度変更にも柔軟に対応

- ✓ 現物書類の所在管理、電子交換所対応、地方税統一QR対応などシステム導入後のご要望や環境変化に柔軟に対応
- ✓ 公益社団法人 日本文書情報マネジメント協会（JIIMA）の「電帳法スキャナ保存ソフト」「電子取引ソフト」「電子書類ソフト」の3つの認証を取得

3. 金庫内の各種システム連携により業務適用範囲を拡大

- ✓ 決算書リーディングシステム、融資稟議支援システム、しんきん預かり資産ナビなど各種システムとの連携実績
- ✓ WEB I/F KIT（オプション）により、経費支払システム（SSBソリューション社）や渉外支援システムなどとAPI連携が可能



●Canon、Canonロゴはキヤノン株式会社の登録商標です。●本紙に記載されている会社名、商品名は、一般に各社の登録商標または商標です。●記載の内容は2023年3月現在のものです。●弊社の都合により予告なく変更させていただく場合がありますのでご了承ください。

製品に関する情報はこちらでご確認いただけます。

Home Page
 キヤノン 法人のお客さまページ
canon.jp/business
 キヤノン 導入事例
canon.jp/business/case

Canon キヤノンマーケティングジャパン株式会社

〒108-8011 東京都港区港南 2-16-6 CANON STOWER

●ご購入・お問い合わせは、弊社営業担当まで

2023年3月現在